

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	埼玉県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	小川町立礪台中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	0	9	22
生徒数	87	99	102	0	288	

研究の概要

1. 研究主題

研究主題

一人一人の生徒に目を向けた学習指導方法の研究
 ~自ら学ぶ意欲をわきたてる指導方法の工夫改善~

主題設定の趣旨

各教科の特性に応じて、学習内容や学習形態および指導方法の工夫改善などの学習指導と評価の充実に全校で取り組むことにより、生徒一人一人の学ぶ意欲も高まり、本校の学校教育目標「自ら学ぶ」生徒を育成し確かな学力を身につけさせることができる。

2. 研究内容と方法

(1)実施学年・教科

1・2年生 数学(生徒の理解の程度に差が生じやすい教科であるため)
 1・2年生 理科(前年度もT・Tに取り組んでおり、実績があるため)
 全学年・全教科で個に応じた指導に取り組んでいる。

(2)年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>数学科の少人数指導、理科のT Tを中心に、全教科における授業研究を通して、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>数学科・理科を中心とした全教科で個に応じた学習指導の工夫改善を図り、評価規準を見直し、指導と評価との一体化を図れば、学習意欲も高まり、学力の向上を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>理論研究 文部科学省の資料による「確かな学力」「基礎・基本」の明確化 大学教授の講演による「学力」についての研修 全教科での基礎・基本の確認及び絞り込み</p> <p>調査研究 アンケートによる学習状況の実態把握(生徒向け、保護者向け)</p> <p>実践研究</p> <p>全教科での評価規準の見直し 全教科での基礎・基本8観点の確認および重点とする観定の決定</p> <p>授業での取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学科では少人数指導での習熟度別学習や完全習得学習
	<pre> graph LR A[学習室2] --- B[学級全体] B --> C{診断テスト} C --> D[発展コース] C --> E[応用コース] C --> F[基礎コース] </pre>

・理科では指導方法を工夫したTTでの個に応じた学習

形態	指導のポイント	具体的な指導場面
T・T	分割型 ○教員数で学級を分け学習内容の徹底を図る ○基礎的な技能の習得を図る	野外観察や実験の説明 基礎操作でのパフォーマンステスト（ガスバーナー、顕微鏡、計器など）
	協力型 ○T1が授業を進め、T2が個別指導を図る ○興味・関心を高め、意欲の向上を図る	グループでの話し合い活動、ディベートや調べ学習後の発表時
少数人	自由進度別 ○学習適性を確認し、課題の把握を図る	単元はじめオリエンテーション「バイキング方式実験」
	課題別 ○学び方や問題解決能力の向上を図る ○関心・意欲の高揚を図る	単元終了後の課題選択学習 光や音の単元でのものづくりものづくり（光、音、モーターなど）
	達成度別 ○学習の理解度に応じて、希望によりコース分けをし、学習内容の定着を図る。	作図やグラフ、オームの法則などの演習的な学習時 単元終了時の補充・再実験および発展実験コース

・全教科でも個に応じた指導の取り組み

環境づくり

学習案内などを掲載した樗ボードの設置

携帯電話のサイトを試験的に開設

読書を奨励するための図書館祭り、朝読書時でのボランティアによる素話

テーマ

一人一人の学びに応じた選択教科の工夫、各教科との関連を図った総合的な学習時間「知恵の樗タイム」を通して、個に応じた指導の充実を図る

平成16年

研究の見通し（仮説）

前年度同様に、全教科では少数指導などの指導方法や指導形態の工夫改善を図りながら、選択教科では個に応じた能力の伸長をめざしていく。また、各教科で身につけた力を生かし啓発的な体験学習を中心にした総合的な学習の時間「知恵の樗タイム」の充実を図っていく。これらのことを取り組むことで、基礎・基本を確実に習得し、自ら学び方や生き方を身につけ、より確かな学力の向上が図れると考える。

年度

研究の内容・方法

実践研究

数学科・理科・英語科における少数指導など指導形態の工夫改善

選択教科における生徒のニーズに応じたコースの拡大

総合的な学習の時間「知恵の樗タイム」のさらなる実践

調査研究

諸検査による学力向上の把握

(3)研究推進体制

実践研究の組織と内容

学力向上推進委員会・・・全体計画の立案、作成、検討
 (構成 校長、教頭、教務主任、研究主任、各部長)

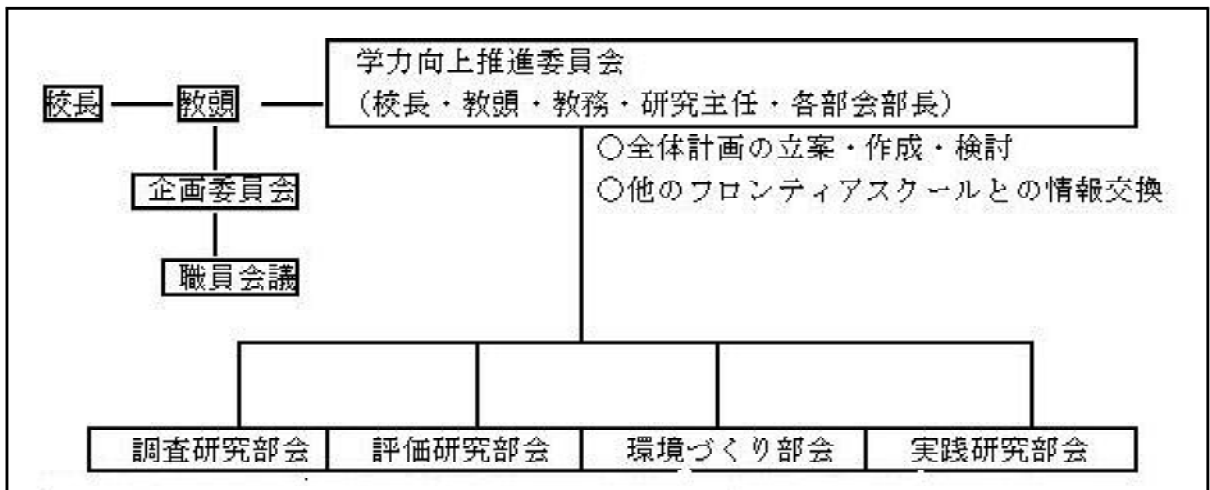
各 部 会

実践研究部会・・・個に応じたきめ細かな指導、少人数指導のあり方についての研究 (構成 教科主任 5教科、4教科)

調査研究部会・・・アンケートによる学習状況の実態把握

評価研究部会・・・各教科での評価規準の見直し、学力のとらえ方などの調査

環境づくり部会・・・ホームページの作成、朝自習などの学習習慣の設定



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

いままでの一斉授業と比べて少人数指導などのきめ細かな指導により、学ぶ意欲や態度の向上が見られた。授業についてのアンケートによると「学習の内容がよくわかる」「先生や友達の話をよく聞く」「わからないことなど先生に聞きやすい」という回答が8割以上を占め、真剣に集中して授業に取り組む生徒の姿がうかがえる。

習熟度別学習におけるグループ学習ではお互いに協力しながらも、生徒は自意欲的に課題解決に取り組んでいた。

1単位時間の中で多くの生徒へ助言と支援ができた。

文部科学省の冊子を資料とした校内研修、大学教授の講演、先進校の視察などに取り組むことで、全職員が「確かな学力」「基礎・基本」を共通理解することができた。

全教科で評価規準の見直しを図ることで、日々の授業のねらいが一層明確になり、指導に生きる評価活動に努めることができた。

全教科で実践していく中で、教科の枠を取り払った確かな学力向上への共通理解を図ることができた。また、教科担当者間での情報交換や意見交換もふえ、よりよい授業づくりをめざした連携が深まった。

2. 今後の課題

選択教科や総合的な学習の時間にも、きめ細かな指導の取り組みを図る必要がある。本年度取り組んできた必修教科との関連を図りながらも、一人一人の学びに応じた選択教科、体験学習を核にした総合的な学習の時間に取り組んでいく必要がある。

さらに評価規準を検討して工夫改善を図る必要がある。特に、各教科の「学び方」(各教科の見方や考え方)「学ぼうとする力」(各教科の関心・意欲・態度)をどう測定し指導に生かしていくかに取り組んでいく必要がある。

学ぶ意欲を高めるための教材教具の工夫を図っていく必要がある。

数学科の少人数指導では、習熟度別学習と完全習得学習を試みたが、コース選択してきた人数にばらつきが見えた。少人数指導のよさを生かし数学の楽しさを味わえる授業展開の工夫改善を図る必要がある。

学力の向上を把握できる客観的な資料をさらに収集する必要がある。

教師間での打ち合わせ時間を確保する必要がある。個に応じた多様な指導形態を実施するためには教師の連携が重要な鍵となる。

学力把握のための学校としての取組

中学校教科研究会作成の基礎学力調査を2学期に実施した。参加中学校と比較しながら本校における基礎学力の定着度を分析中である。

年5回実施の定期テストに観点別に出题し、観点別の学習状況の把握に努めた。

生活や学習に関するアンケートを2学期実施し、生徒の学習に対する意識や実態を把握した。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

西部地区学力推進協議会において中間発表(平成16年2月3日 川島町福社会館)

対象 西部地区小・中学校

小川町教育研究会・教務主任会にて報告書配布

ホームページを現在作成中、試験的に携帯サイトで公開中

保護者・地域に向けて

彩の国教育の日(平成15年11月1日)にて「個に応じた指導」の授業公開

P T A 総会、保護者会、P T A 広報紙にて取り組み状況の説明

公開授業研究会(予定)平成16年11月17日(水)於 本校

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--------------|------------|------|---------|
| 【新機校・継続校】 | ✓ 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | ✓ 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| | 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | ✓ 少人数指導 | ✓ T・Tによる指導 | | |
| 【研究教科】 | ✓ 国語 | ✓ 社会 | ✓ 数学 | ✓ 理科 |
| | ✓ 外国語 | ✓ 音楽 | ✓ 美術 | ✓ 技術・家庭 |
| | ✓ 保健体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | ✓ 有 | 無 | | |